



2023秋季企画展ポスター

中部大学民族資料博物館は、2023年10月26日から12月15日に開催を予定している、企画展覧会『松浦晃一郎コレクション(新規寄贈彫刻) —彫刻から見たアフリカ展』を準備中である。展覧会の準備には会場設営(展示ケース準備・照明調整・温湿度管理・キャプション作成・パネル類作成・展示作業など)と共に、図録(展覧会カタログ)作成という仕事があり、関係者のご協力のもと、博物館スタッフは奮闘中なのだ。図録に稿者が執筆を予定している、開催主旨と松浦晃一郎氏のコレクション(アフリカ彫刻)が民族資料博物館に収蔵された経緯を記す前に、ここではこの企画展準備のなかで、アフリカ学や外交に浅学な稿者が学んだ、ひとつのことを綴ってみたい。

周知のように、松浦晃一郎氏は1999年から2期10年間、アジア初のユネスコ事務局長を務めた外交官であり、

『松浦晃一郎コレクション(新規寄贈彫刻) —彫刻から見たアフリカ展』 準備のなかで

荒屋鋪 透 (中部大学民族資料博物館長、人文学部教授)

本学園の学事顧問のお一人である。稿者はまず「ユネスコ憲章前文」を読んできた。以下に、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が公開する「ユネスコ憲章(前文)」とその英訳の一部を引用する。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。このユネスコ憲章は1945年11月16日、英国ロンドンで採択され、46年にフランスのパリにユネスコ本部が設置された。

ユネスコとはUnited Nations Educational, Scientific and Cultural Organizationの頭文字U.N.E.S.C.O.をとった国際連合教育科学文化機関である。この前文の意味する内容と共に、まず文体の美しさに感動した。英語ではこうなる。Since wars begin in the minds of men, it is in the minds of men the defenses of peace must be constructed. 憲章はつづけて、互いの風習と生活への無知、無理解が人間の尊厳や平等を否認し、そこから諸民族の間に疑惑と不信をうみ戦

争を引き起こした、と告発する。憲章の作成された1945年、人類史上最大の死傷者をかぞえた第二次世界大戦が終わった。敗戦国のみならず戦勝国、中立国も人命だけでなく国土、文化の荒廃を誰もが体験、目撃したのである。そのなかで作成された憲章であった。

「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」を読んだとき、他の多くの宣言文とは異なる、法律や政治の文章では珍しい「心」という言葉がつかわれていることに注目した。稿者の専門である芸術学、美学・美術史学、博物館学はすべて、この「心」が重要なのだ。また民族学は憲章にある、諸民族の風習や生活を知るための学問であり、民族資料博物館の目的は、少し大げさだが、その一端を担うところにあるからだ。ユネスコ事務局長を10年の長きにわたり務めた、松浦晃一郎氏の収集されたアフリカ彫刻の企画展を、ぜひ多くの人に観ていただきたいと思っている。

索引

- | | |
|---|---|
| <p>◇巻頭</p> <p>1 『松浦晃一郎コレクション(新規寄贈彫刻) —彫刻から見たアフリカ展』準備のなかで
中部大学民族資料博物館長・人文学部教授 荒屋鋪 透</p> <p>◇調査記録(学園・大学記念資料)</p> <p>2 三浦幸平メモリアルホール三浦幸平記念室の冊子制作
中部大学民族資料博物館 原田 千夏子</p> <p>◇実技講座</p> <p>3 2022年度(秋学期)特別講座(古典絵画)開講
— 画絹に描く(扇面と短冊の制作)
日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員 下川 辰彦</p> <p>◇企画展(成果発表展)</p> <p>3 特別講座(古典絵画)2020年度(秋学期)~2021年度(春学期)受講生作品展
— 四季を描く~金箋紙・銀箋紙
中部大学民族資料博物館 原田千夏子</p> | <p>◇教育普及活動</p> <p>4 「中部大学 WEB ミュージアム」
大学サイトでの公開開始</p> <p>5 CAAC 授業「旅と文学」内見学
(大和絵写作品他解説)</p> <p>◇施設利用</p> <p>5 小学校スタンプラリー見学</p> <p>◇トピック</p> <p>6 展示室における感染症対策と期間中の主な試み</p> <p>7 外国人留学生との交流
~博物館活動への参加について</p> <p>10 2023 行事案内</p> |
|---|---|

調査記録(学園・大学記念資料)

三浦幸平メモリアルホール 三浦幸平記念室の冊子制作

中部大学では、学内各所にさまざまな作品資料が展示されている小空間がある。大学開学から、少しずつ設けられてきたスペースらしく、キャプションが付けられているものもなかにはあるが、多くは、制作者名と題目のみとなっている。詳しい解説情報がないことから、この場所に迎え入れられた由来を知る機会はありませんといっている。正門横の三浦幸平メモリアルホール内に設けられている「三浦幸平記念室」もその一例だろう。学園の礎となった草創期に関する資料であろうことは想像がつく。しかし、展示されている記念資

料を当時の写真記録とともに結びつけて鑑賞することはあまりされてこなかったのではないかと。そこで、民族資料博物館では、一つひとつの展示資料をケースから取り出し、資料の状態を観察し、寸法の採寸と記録撮影を行いあらためてリストを作成、さらに、それらが草創期のどの時代に相当するものかを関連資料をもとに確認する調査を行った。調査記録として、創立者の三浦幸平先生の少年期から青年期、壮年期にわたる時代とともに、中部大学が誕生するまでの歴史を、展示資料とその時代の風景

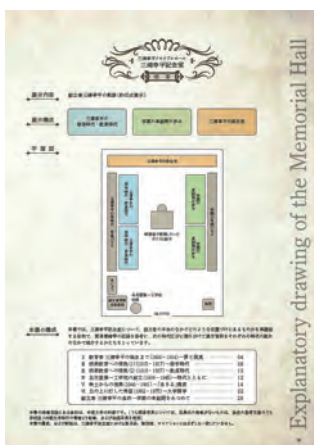
写真とともに、解説文を付して順に追っていく小冊子にまとめた。*この小冊子はあくまで記録ということから印刷部数を限定したが、次は、ここで得た記録をもとに、記念室へ訪れた方が手で読み開くことのできるリーフレットの制作を検討していきたいと思っている。こうして徐々に解説や画像等の情報を公開データベースに登録を追加していき、学園および大学の歴史資料の存在をより多くの人びとへ伝えていけるように関係者と協力しながら進めていきたい。

(原田)

* この「三浦幸平記念室」冊子の制作については、これまで民族資料博物館が行っている大学コレクション資料の記録活動の一端として試みました。
 ・ 大学開学50周年記念に合わせた企画展図録(2014年度)
 ・ 学園創立80周年記念に合わせた企画展図録、およびリーフレット制作、キャンパスの美観を紹介する小冊子「中部大学 キャンパス・アートマップ」の制作(2019年度)
 ・ 大学コレクション資料のデータベース構築(2021年度)と公開サイトの運用「中部大学WEBミュージアム」(2022年度)



冊子表紙



記念室の展示室平面図と冊子目次

三浦幸平メモリアルホール 三浦幸平記念室冊子 (目次)

三浦幸平記念室について、創立者の半生のなかでどのような位置づけにあるものかを再確認する目的で、関連書籍等の記録を参考に、次の時代区分に振り分けて展示資料をそれぞれの時代の流れのなかで紹介するかたちをとりました。

- I 教育者 三浦幸平の誕生まで(1890-1914)
～夢と現実
- II 技術教育への情熱(1)(1915-1917)
～修学時代
- III 技術教育への情熱(2)(1918-1937)
～教員時代
- IV 名古屋第一工学校の創立(1938-1945)
～時代とともに
- V 焦土からの復興(1946-1961)
～「生きる」模索
- VI 丘の上に灯した希望(1962-1975)
～大学開学

創立者 三浦幸平の息吹
～学園の草創期をみつめて

9
2022 月

3
2023 月

実技講座

2022年度(秋学期)特別講座(古典絵画)開講 — 画絹に描く(扇面と短冊の制作)

【期間】2022年9月28日(水)～2023年3月15日(水)

*2021年度(秋学期)、2022年度(春学期)より継続課題テーマ
2021年10月6日(水)～2022年1月6日(水) [15人]
2022年4月27日(水)～2022年7月27日(水) [15人]

【場所】中部大学10号館106Jゼミ室

受講者数：14人(有料・定員制・通年)

指導講師：下川 辰彦 (日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員)

指導講師：渡邊 美喜 (日本美術院特待)*一部代行

担当：原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館)

扇面の作品1点と、短冊の作品を2点、あわせて3点の小品を一式として、絵の世界を作り上げる課題制作を提案し、2021年度の後半から継続して進めてきている。描くモチーフは各自の自由とするものの、3種の画面を組み合わせて一つの作品とする点は、複数の画面を同時に構想することとなり、1点の作品のみの場合とはまた違った感覚で作品と向き合うことになる。極端に言えば、3つの断片的な空間を使って、描き手の頭の中で考えるイメージを垣間見せるようなものといえる。目に見える部分の背後に、目に見えない深

遠な、広大な世界が広がっているようにも表現しだいで創造できるともいえる。このような構想の面白みを描いていくなかで味わっていく機会となるように、一つひとつの工程の意味を伝えようと試みている。

2022年度の講座期間は、コロナ禍が続いており、講座自体は半期ずつ、感染症の状況をみながら行っていくという、博物館との調整を続けながらの開講となった。大学のなかでは、実験や実習の授業に準じるとして、少人数の実技講座という面を配慮いただき、



特別講座の教室風景
指導講師の実演による手本を見て学ぶ様子
(上・下)

比較的早い段階で対面形式での再開を許可いただいた点にはありがたいと思っている。(下川)

3
2022 月

9
2022 月

企画展(成果発表展)

特別講座(古典絵画)2020年度(秋学期) ～2021年度(春学期)受講生作品展 — 四季を描く～金箋紙・銀箋紙

【期間】2022年3月22日(火)～9月30日(金)

(会期中に関係者限定で指導講師による講評会を実施：2022年9月28日)

【会場】中部大学民族資料博物館 シルクロード室、
附属三浦記念図書館1階エントランス

主催：中部大学民族資料博物館(出品点数42点)

企画：下川 辰彦(日本美術院特待・中部大学民族資料博物館 外部専門委員)

：原田 千夏子(中部大学民族資料博物館)

入場者数：1,223人

特別講座(古典絵画)2020年度(秋学期)、2021年度(春学期)の受講生作品展は、課題制作の「金箋紙」「銀箋紙」は、一人あたり4点一組で四季の風景をイ

メージした作品である。その他に、自由テーマでの制作作品、指導講師の賛助出品を含め計42点を展示した。今回の課題テーマでは、指導講師によって、色紙



受講生作品展ポスター

の表装「色紙掛け」を眺めることが提案された。色紙掛の色みを寒色系、暖色系、中間色の3種とし、裂の地色を紺色、黄緑、淡茶に限定した。

受講生は、作品の仕上がりに応じてどの色紙掛けにするか選ぶことにした。作者は、作品のみならず、作品を飾る表装と組み合わせた総合的な鑑賞を念頭に、作品の最終形を想像しながら、それぞれの四季のイメージを具現化していく過程を学ぶこととなった。描き手ならではの観点を知ることが指導講師は課題制作の主眼としていたのである。

そしてまた、色紙掛けに作品を飾るという体験も初めての受講生が大半であり、設置したときの作品の見え方の変化を新鮮

に感じた者も多かった。色紙掛けは略式の軸装の一種であるが、こうして制作から展示という場を通じ、あらためて日本の伝統的な表装の美しさに触れることで、現代の日常における絵画の楽しみ方を再発見した思いであった。

講座の開講は、2020年度に感染症で半期開講がずれたことで、半期ずつの開講を続けた。翌年度以降も、課題制作の進行をみて、「金箋紙」「銀箋紙」は年度をまたいで制作期間をとった。成果発表展の会期についても、

館において検討し、展示室への一般入場は制限することから始める一方、ふだんよりも長い日程を設定し、感染症の収束を待つこととした。しかし、なかなか落ち着きを取り戻すことは難しいことから、一般公開日を7月から9月の週3日に限定し、事前予約制で少人数グループに分けて受入れを行った。

会期終盤に関係者限定で実施した、指導講師による作品講評会では、対面により交流する時間の貴重さを参加者全員で再認識することとなった。(原田)



受講生作品展の講評会の様子
(左・指導講師の下川先生)



特別講座受講生作品展の様子
(課題作品の箋紙作品を色紙掛けの表具に入れて展示)

5
2022 月

教育普及活動1

「中部大学WEBミュージアム」 大学サイトでの公開開始

<https://www.chubu.ac.jp/about/web-museum/>

報告：原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館)



中部大学WEBミュージアム
新サイトにおけるコンテンツ紹介

収蔵資料管理用データベースの登録情報の一部を、大学サイトで公開し、中部大学の魅力を画像配信によって知っていただくためのツールとして、「中部大学WEBミュージアム」を2022年5月より、大学サイト上で開設した(2021年度に公開系データベースとして構築)。

工業大学から出発し、現在では文理8学部を要する総合大学となった中部大学にとって、これまでの歩みを画像で振り返ることができる場、そしてまた同時に、多様な分野が共生している大学キャンパスで、まさに「今」

の大学の「表情」「景観」を紹介できる場としていくことができたらと思っている。

中部大学の今昔を伝えることを念頭に、データベースの検索サイトには、検索画面によるだけでなく、登録情報のなかから代表的なコンテンツを設定し、画像をクリックするだけで、関連情報の検索結果一覧画面へ飛ぶことができるようになっている。サイトのスタート時点では、中部大学の創立者肖像写真はじめ開学時期の建物図面や写真を掲載する「大学の歴史物語」、広大な春日井キャンパスのなかで

点在する絵画や彫刻、庭園などを掲載する「キャンパスの美観」の他、大学の学術文化の研究交流のなかで寄贈を受けた「蝶標本資料コレクション」や「クラシックカメラコレクション」の一部の登録情報の掲載から始めることとした。また、コンテンツには、「高精細画像」で登録作品資料を、超「ど」アップで鑑賞する機能も備えている。手始めには、古画の模写作品と現代日本画作

品の2点を設定している。絵画面の絵具の色層の複雑な重なり構造など、ふだん目にすることができないミクロの世界に入り込む迫力をぜひ体験していただきたい。

データベースの公開情報数はまだ限定的だが、今後、少しずつ情報を収集し取り入れていくことが、当館の大学博物館としての一つの役割となっていくと思っている。(原田)



常設展示の一角の関連モニター
(データベースを利用できるサイトを表示)

登録作業担当者の声

収蔵資料のリスト整理を担当していることから、データベース構築期間も、新しい分類項目の検討段階から参加し、4,000件以上の収蔵資料の画像やテキスト情報を新たな設定項目にあわせて登録し直すため、全エクセルデータの整理作業にあたりました。データベース完成後は、画面検索の便利さを日々の業務で実感でき、準備作業の大変さも報われたように思われ嬉しいです。(宮沢)

11
2022 月

教育普及活動2

CAAC 授業「旅と文学」内見学

|| 日時 || 2022年11月18日 (金)

授業担当：岡本 美和子 (CAAC 授業「旅と文学」非常勤講師・中部大学非常勤講師)

作品解説：原田 千夏子 (中部大学民族資料博物館 学芸業務兼務)

参加者数：13人

内 容：所蔵資料について解説と鑑賞

対象作品：中部大学蔵の大和絵の模写作品

《模写 源氏物語絵巻「柏木(三)」》(原本 徳川美術館本)

《模写 扇面古写経絵図》(原本 東京国立博物館本)

《模写 平治物語絵巻 六波羅御幸巻》(原本 東京国立博物館本)

日本画の顔料と染料の重ね塗りの色見本パネル



館職員による作品解説の様子

1
2023 月

施設利用

小学校スタンプラリー見学

|| 日時 || 2023年1月27日 (金)

実施校：春日井市立北城小学校

(担当/国際・地域推進部地域連携課)

参加者数：79人

内 容：展示室にてスタンプラリー式鑑賞

(* 感染症対策実施)

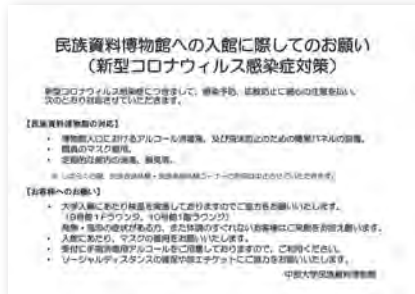


見学風景

展示室における感染症対策と期間中の主な試み

誰もが初めて経験することになった、公共施設における新型コロナウイルスへの対策。

民族資料博物館では、日本博物館協会、愛知県博物館協会等を通じて、文化庁から配信される博物館に求められる対応法を参照しながら、大学の基本方針に添うなかで取り組みを続けました。



館の対策内容の掲示
館HPでも周知



展示室受付の様子



民族衣装体験中止の表示

【臨時休館期間】

2020年3月～7月19日

【学園関係者限定での展示室開館の再開】

2020年7月20日～2023年5月7日まで

【展示室】

体験型の鑑賞コーナーの中止

(ハンズ・オン展示、民族衣装試着・民族楽器体験の中止)

*期間中、学内部署アテンドの学校見学等は一部受入れ

【受付対応】

マスク着用・検温・手指消毒

密の回避・アクリル板設置・換気・清掃

【2020年度の催事等の活動】

常設展：2020年3月より臨時休館。

(休館中は、常設展示室の展示配置の改編に取り組み、あわせて解説文や資料図、サイン表示を増設。約半年間にわたった改編後は展示室風景の記録映像を撮影)
同年7月より、展示室への入場を学園関係者限定で再開。

企画展：開催保留、のち一部WEB上で展示作品の画像を公開(WEB展覧会)。

特別講座：春学期休講。

秋学期より、臨時的に通信制に切り替え開講。

【2021年度～2022年度の催事活動】

常設展：展示室への入場を学園関係者限定で継続。

企画展：学園関係者限定での開催につき、展示室風景の動画を制作しWEB配信を実施。

開催期間を通常2～3ヶ月のところを、6ヶ月に設定し感染症の収束を待つ。

収束の見通しが立たないことから、次の対応に変更した。

企画展会場の映像を撮影編集し、会期中に動画配信を実施。

会期終盤に、事前予約制で指定日に限定して一般入場を実施。

関連講演会は中止とし、代わりに関係者限定で座談会を実施。記録映像を撮影し、印刷冊子にまとめた。作品講評会も関係者限定で実施。

特別講座：実験・実習の授業と同等とみなされ、対面形式での開講(ただし半期ずつに区分)。

約3年にわたる
コロナ禍を振り返り～
展示室の
受付担当者の声

「大学における感染症対策期間は、展示室は学園関係者限定での受け入れとなりましたが、来館するお客様に安心してご見学いただけるよう、一日のうち、複数回にわたりアルコールシートを用いた拭き取り作業を館内で行うようにしました。日中の清掃実施の記録はチェックシートに記録して視覚化することで、次の受付当番者と交代時に共有できるようにし、関係者間においても意識を高めるよう努めました。ご来館いただいた方の多くが、(感染対策用の)入室記録用紙への記入や検温、手指消毒の呼びかけに快くご協力下さり、受付スタッフも安心して業務を行うことが出来ました。」(梶藤、宮沢)

外国人留学生との交流 ～博物館活動への参加について

コロナ禍を経て、中部大学では、2023年の春から、授業の多くが対面式となり、留学生の受入れもようやく再開しました。

民族資料博物館では、さっそく春学期に館の補助作業で中国からの3人の大学院留学生に参加していただく機会がありました。久しぶりの異文化交流の場を求め、日本で学ぶ様子をおききしてみたく、インタビュー形式の場を設けさせていただきました。

進行：原田 千夏子、記録：梶藤有美、宮沢桂子（民族資料博物館担当）

【インタビューに参加いただいた留学生の皆さん】



オ云 温都拉 さん
(オヨン・オンドラ)

大学院国際人間学研究科
歴史学・地理学専攻1年
一谷和郎研究室



楊 剣萍 さん
(ヨウ・ケンハイ)

大学院国際人間学研究科
国際関係学専攻1年
和田知久研究室



胡 歆笛 さん
(コ・キンテキ)

大学院工学研究科
応用化学専攻1年
守谷せいら研究室

Interview 【インタビュー（概要）】

進行： 本日はお忙しいなかお集りいただきありがとうございます。
さっそくですが、まずは、皆さんの出身国とお名前の意味、表記について教えてください。

オ云さん： 中国、内モンゴル自治区の出身です。モンゴル語で「オヨン」は日本語での「智慧」、「オンドラ」は「永遠に」を意味します。モンゴル語は縦書きが主流です（実際に書いていただきました。流れるような文字のつながり。とても美しい！）だからスマートフォンの画面も、縦書き表示に合わせた構成になっています。

「オンドラ」は日本語にない音で正しい表記はできません。

アルファベット表記では、Wuyun Wendula, Oyun Undurul が近いです。生活のなかではスラヴ語派を表記する表音文字のキリル文字を使うこともあり、用途によって複数の文字の表記を使い分けています。



名前について、母国語の読みを教えてくださいました。

楊さん： 中国、青海省出身です。中国語では「ヤン・ジェンピン」と読みます。楊と、「剣気 簫心」の「剣」と、「萍水相逢」の「萍」との組み合わせで、「優れた決断力と鋭い観察力を培い、人との絆を大切にする」という意味が込められています。

胡さん： 中国、貴州省出身です。中国語では「フウ・シンディー」と読み、英語表記の Cindy に近い音です。「歆（キン）」という字は日本語ではほとんど使わない文字ですが、中国の古い時代の祭りの「楽しさ」を表します。楽しく（幸せに）過ごせませうよという願いを込めたときいています。

進行： お名前の音や文字の意味からも、それぞれの土地の文化的背景が感じられる気がします。次に、それぞれのお国の風物を知りたいです。日本の友人があなたの故郷を訪ねるとしたら、何をおすすめしますか。民族文化の観点から、自然、祭り、食べ物、民族衣装などから教えてください。

オ云さん：



博物館の収蔵資料で、関連の民族衣装をいくつか見てもらいました。色合いによって着る年齢層が決まっていることを教えてくださいました。（オ云さん）

内モンゴル自治区のなかでも北部出身です。冬はマイナス 30 度になるところで、夏の祭典に「ナーダム (Naadam)」というお祭りがあります。旧正月のお祝いに似ています。羊の肉を使った「ボーズ」という蒸し料理を食べます。民族衣装は「デール」といって、青や赤、緑などいろいろな色のものが複数枚あり、季節に応じて生地を厚みを換えて祝事で着ています（写真をみせていただきました）。

楊さん： 青海省の海北チベット族自治州の西海町（鎮）の小さな町ですが、青海湖、鳥島、門源の菜の花畑など、景色のよい場所や、文化的な建築の一つにはタール寺があります。チベット族、回族、モンゴル族など、少数民族が共存する地域で、小さい頃から身近に異文化交流が日常的にできる環境でした。新年の祝い方も漢民族とは異なり、チベット族は焚火を囲み、輪になって歌い踊ります。食べ物ではラム肉やヨーグルトをよく食べます。「草原音楽フェスティバル」や「社火」というお祭りがあります。チベット族は馬を扱うことで有名で、観光でも乗馬を楽しむことができます。民族衣装は日常ではあまり着ることはありませんが、チベット族のドレスや回族の伝統衣装には美しい刺繍のデザインが特徴的です。

胡さん： 私のルーツは、貴州省の少数民族の苗族です。貴州省はさまざまな民族が住み、また約 2300 年前の秦王朝時代にさかのぼるほど歴史があり、古い町並みが残る場所も多いです。そして豊かな自然の景色も美しいです。なかでもおすすめは、「鎮遠古鎮（日本語読みで、ちんえんこちん）」です。ここは、「国家歴史文化名城」に指定された都市で、「東方のヴェニス」とも呼ばれ、清らかな山河の景観のなかで、苗族の、青色の煉瓦と青黒色の瓦を用いる伝統的な民家の建ち並ぶ景色を楽しむことができます。

食べ物でいうと、とうがらしを使った辛い料理が多いです。貴州料理の代表的なものに「酸湯魚 (Suantangyu)」があります。鍋にトマトベースのスープを作り、川魚や地元の野菜をたくさん入れます。絶妙な酸味が食欲をそそり、癖になる味、とよくいわれます。

民族衣装には、銀製の飾りを付けた帽子や鮮やかな刺繍をしたカラフルな衣装があります。ふだんではあまり着ることはありません。日常で着ていたのは、祖母の時代くらいまででしょうか。

進行： ありがとうございます。現代の暮らしのなかにも伝統的な習慣が息づき、家族で大切に受け継がれている様子が伝わってきますね。

それでは、一転して、日本でのことをおききます。日本の味覚の体験から。食べ物で、好きなもの、苦手なものはありますか？また日本で文化の違いを感じたことはありますか？

オ云さん： うなぎです。うなぎは、ホロホロ、ふかふかした食感が好きです。逆に、生のは食べられません。

楊さん： うどんが好きです。私も生のは苦手です。でも刺身のなかで、マグロだけは食べられます。高級なものは大丈夫だね、と友人から言われます(笑)。

日本で驚いたのは、右側通行と左側通行の違いです。だいぶ慣れましたが。

また、電車などで日本では静かで、マナーの良さに感心しました。「空気を読む」ということも日本的なものとなりました。

胡さん： 名古屋の味噌カツが好きです。苦手なものはあまりないです。なんでも食べられます。高校生のときに留学で訪日したことがあり、また日本のアニメも好きなので、(大学の)留学以前から、日本の生活をアニメを通じて知っていたので、驚くというより、早いうちから親しめました。日本では声優さんのライブに行くことも楽しみの一つです。

進行： 皆さんが五感で感じ取っている体験をきくと、日本であたりまえのことも新鮮に思われ、興味深いです。次に、民族資料博物館でアルバイトをした感想を教えてください。

オ云さん： 収蔵庫の衣装棚の作業をしたときに、モンゴルの衣装を見せてもらいました。たくさんあって驚きました。美術館や博物館に興味があるので、実物の資料を直接目にして、触れる経験ができて良かったです。

楊さん： 日本画の教室(民族資料博物館企画の公開講座)の補助に入りました。大人を受講生の方から話しかけてくださって、会話のやりとりが自然にできました。皆さんが意欲的に制作している姿も印象的。私の地元では、年配の人は広場でダンスやチェス、囲碁などの遊びをして皆で過ごします。それが、この教室では、個々に作品と向き合い、自分で考え取り組んでいるところに違いを感じました。真剣な態度に私も刺激を受けました。



チャイナドレスは、満州服(清時代の満州族の衣装)が原型で、現代では普段着からパーティドレスまで幅広い用途があるのだそう。「ある種の<勝負服>といえるかもしれません」と楊さん。

胡さん： 私も同じ日本画の教室の補助に続けて入りました。この他に展示室の受付係も毎週一回やっています。

日本画の教室では、受講生の方と親しく会話もできるようになりました。

研究室では同じ世代とばかりですが、この教室では年配の方が多いので、大学でも幅広い年齢層の人と交流ができました。

楊さんによれば、チャイナドレスの中国語は「旗袍(チーパオ)」といい、「旗(チー)」の文字には「旗开得胜(旗を挙げたとたんに勝利を手にする)」ということわざがあるので、これに掛けて受験生の親が合格祈願として身にまとうて試験会場に応援に行くこともあるそうです。最近ではファッションとして楽しむ人も増えてきたといえます。

進行： 日本画の材料や技法は、中国や大陸から教えてもらい、日本の自然のなかで、少しずつかたちを変えて発展し今にいたっています。博物館で行っているこの日本画教室では、春学期から始まった課題を、秋学期には本格的に彩色の工程の段階に入っていきます。作品ができあがっていく過程を見るとまた楽しいと思います。

では最後に、日本で勉強していること、将来の夢など教えてください。

オ云さん： まだ日本語を勉強して日が浅いのですが、日本語とモンゴル語の翻訳家になりたいです。日本では、東京の美術館を巡るなどして、いろいろな作品をたくさん観たいです。

楊さん： 日本語を勉強し、日本語の通訳者になりたいです。もともと日本の落語や漫才に興味があり、大阪などでぜひ本場の劇場で観てみたいです。一方、中国も日本と同じで、少子高齢化が問題になっています。人との交流を通して高齢化社会に貢献できるような仕事に携わりたい、という思いもあります。

胡さん： 高分子複合材料の研究をしています。高分子化合物のなかに、無機材料をフィラーとして入れ、材料の性能上昇を目指す、というものです。将来は研究の道に進むか、化粧品開発や環境対策に関わる仕事で開発の技術職に就くか、考えているところです。

(進行所感) 短い時間でしたが、皆さんがこの中部大学を拠点に、日本文化に接触して刺激を受けながら意欲的に目標に向かって過ごしている姿をうかがうことができ、とても嬉しく思いました。本学での日々はまだ始まったばかり。良いこともそうでないことも、これからかもしれないかもしれませんが、どうか健康にだけは気をつけ、精一杯、留学期間を謳歌していただけたらと思います。博物館においても、人と人との触れ合いの大切さを実感でき、館の活動への取組みに向けて気持ちを新たにしました。本日は、ありがとうございました。



苗族の衣装の刺繍には受け継がれる伝統的な模様があるそうです。(胡さん)

(インタビューをふりかえり)

3人ともお名前は、漢字を用いながらも日本語での読みとは全く異なる音とわかり、驚きでした。音の響きもとても魅力的でした。民族資料博物館の活動について、まだまだ在校生にも展示室の存在を知られていないのでは、もっとPRを、という意見も。感染症対策期間は控えていた講演などの催事も計画し、地域の方や学生さんたちと一緒に学ぶ機会を増やしていきたいです。

2023

行事案内

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

◇ 2022・2023 企画展

「特別講座(古典絵画) 2022 年度受講生発表展 — 画絹に描く～扇面と短冊」開催

会期：3月22日(水)～5月31日(水) *5月31日(水)10時30分より指導講師による作品講評会を実施

◇ 館 HP リニューアル

2023 年 5 月、館 HP リニューアル(大学新サイトへ移行)

<https://www.chubu.ac.jp/student-life/facilities/museum/>

◇ 2023 秋季企画展

「2023 秋季企画展 松浦晃一郎コレクション(新規寄贈彫刻) — 彫刻から見たアフリカ展」開催

会期：10月26日(木)～12月15日(金) 会場：民族資料博物館 シルクロード室
(会期中、11月11日(土)、11月25日(土)は大学催事日で特別開館予定)